

■1976年～2005年3月

リコーグループの活動		活動に対する社会からの評価		世の中の動き	
1976年	環境推進室設立	1971年	環境庁設置/ラムサール条約採択	1971年	環境庁設置/ラムサール条約採択
1990年12月	環境対策室設立	1977年	国連砂漠化防止会議開催/UNEP会議開催	1977年	国連砂漠化防止会議開催/UNEP会議開催
1992年 2月	リコー環境綱領を制定	1987年	モントリオール議定書採択	1987年	モントリオール議定書採択
3月	複写機「FT5570」がブルーエンジェルマーク(初版)を取得	1990年	ロンドン会議(フロンと代替フロンの段階的全廃を決定)	1990年	ロンドン会議(フロンと代替フロンの段階的全廃を決定)
1993年 3月	リコー、オゾン層破壊物質(特定フロン、特定ハロン、四塩化炭素など)の全廃を達成	1991年	再生資源利用促進法公布	1991年	再生資源利用促進法公布
5月	リサイクル製品設計基本方針を発表、リサイクル対応設計レベル1施行	1992年	環境と開発に関する国連会議(地球サミット)開催	1992年	環境と開発に関する国連会議(地球サミット)開催
5月	プラスチック部品への材料名表示を開始	1993年	省エネルギー法改正	1993年	省エネルギー法改正
12月	リコーグループ、オゾン層破壊物質(特定フロン、特定ハロン、四塩化炭素など)の全廃を達成	1995年	第1回気候変動枠組条約締約国会議開催/容器包装リサイクル法施行/国際エネルギースタープログラム施行	1995年	第1回気候変動枠組条約締約国会議開催/容器包装リサイクル法施行/国際エネルギースタープログラム施行
1994年 8月	コメットサークルの概念が完成	1997年 3月	米国リコーコーポレーションが「エネルギースター複写機部門賞」受賞	1996年	ISO環境マネジメントシステム環境監査規格制定/米国EPA国際エネルギースター賞制定
11月	プラスチック部品に材料名およびグレード表示を開始	1998年12月	日本経済新聞社「第2回企業の環境経営度調査」で、リコーが第1位	1997年	第3回気候変動枠組条約締約国会議(COP3、京都会議)開催 京都議定書採択
1995年 2月	第1回リコー全社環境大会を開催	1999年11月	リコーが、国際エネルギー機関(IEA)主催のDSMプログラム第1回未来複写機部門で「省エネ技術賞」受賞	1998年	エコ・パートナーシップ東京会議開催/地球温暖化対策推進法制定
10月	エネルギースター対応製品を発表	2000年 3月	米国リコーコーポレーションが、エネルギースタープログラムで「総合大賞」を含む3賞を同時受賞(エネルギースター賞は5年連続受賞)	1999年	改正省エネルギー法施行/PRTR法制定
12月	リコー御殿場工場がISO14001認証を取得(日本の認証機関による第1号の認証)	6月	リコー、「第10回朝日新聞文化財団企業の社会貢献度賞 大賞」受賞	2000年	国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律公布/循環型社会形成推進基本法制定/廃棄物処理法改正/資源有効利用促進法制定/グリーン購入法制定
1996年 7月	リコーUKプロダクツがBS7750/ISO14001の認証を取得	12月	リコー、日本経済新聞社「第4回環境経営度調査」で3年連続第1位	2001年	環境省発足/第1回21世紀『環の国』づくり会議開催/特定家庭用機器再商品化法(家電リサイクル法)施行/国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律全面施行
1997年 3月	79種類の管理化学物質を設定	2001年 7月	リコーは、米国イノベスト・ストラテジック・パブリック・アドバイザーズ社が実施した環境格付けで、写真・事務機器部門での最高スコア「AAA」と評価され、世界第1位	2001年	持続可能な開発に関する世界首脳会議(ヨハネスブルグサミット)開催
1998年 4月	リコーリサイクル事業部が発足	12月	リコーが、英国フィナンシャルタイムズ紙調査のCEOが選ぶ環境保全に優れた会社部門で世界第7位	2002年	WEEE(EU廃電気電子機器リサイクル指令)発効/RoHS(EU電気電子機器危険物質使用制限指令)発効
5月	リコーグループグリーン調達ガイドラインを発行	2002年 5月	リコーが、ドイツのエコム社による「企業の社会的責任」格付においてOA機器・家電部門で世界第1位	2002年	国連気候変動枠組条約第10回締約国会議(COP10)
10月	リコー福井事業所が再資源化率100%(ごみゼロ)を達成	2003年 4月	リコーが、「第12回地球環境大賞 大賞」受賞	2003年	京都議定書発効(2月16日)
1999年 1月	1998年版リコーグループ環境報告書を発行	5月	リコーが、「2003年WECゴールドメダル」受賞		
9月	リコー、初めての環境会計を発表	11月	リコーが、「第6回グリーン購入大賞 経済産業大臣賞」受賞		
2000年 1月	リコー、複写機28機種でエコマークを取得	2004年 2月	imagio Neo 752/602シリーズが、「第14回省エネ大賞 省エネルギーセンター会長賞」受賞		
2月	リコーのデジタル複合機「imagio MF6550」が、タイプⅢ環境宣言の認証を取得(認証機関はBVQIスウェーデン)	12月	リコー、日本経済新聞社「第8回環境経営度調査」で第1位(4回目)		
3月	第1回 グローバルリサイクル会議を開催	2005年 1月	リコーが、The World Economic Forum(世界経済フォーラム:通称ダボス会議)で「持続可能なグローバル企業トップ100社」に選定		
2001年 7月	リコー、e-mission55(イームッション55)に参加を表明				
12月	環境調和型デジタル複合機imagio MF6550RCをレンタル専用機として商品化				
2002年 1月	第1回 リコーグリーン調達大会を開催				
3月	リコーグループ世界主要生産拠点が、再資源化率100%(ごみゼロ)を達成				
4月	リコーが、国連「グローバルコンパクト」に参加表明				
9月	リコーが、(社)産業環境管理協会(JEMA)が運営するタイプⅢ環境ラベル「エコリーフ」のシステム認定取得				
11月	リコー大森事業所「騒音試験所」が、米国NISTからISO/IEC17025の認定取得				
12月	リコーグループ、第1回環境経営活動賞 表彰を実施				
2003年 1月	リコーCSR室を開設				
6月	リコーが、紙製品に関する環境規定を制定				
2004年 1月	リコーが、「リコーグループ 行動規範」「リコーグループCSR憲章」を施行				
10月	リコー大森事業所のVOC試験所が、独BAMからメーカーとして世界初の認証を取得				

※ 詳細はホームページをご覧ください。(http://www.ricoh.co.jp/ecology/history/index.html)

■2005年度 (2005年4月～2006年3月)

リコーグループの活動		活動に対する社会からの評価	
2005年 5月	全世界の高校生を対象にした科学コンテストISEF (国際学生科学技術コンテスト)で「リコー持続可能発展賞」授与	2005年 5月	リコーグループサステナビリティレポート2004 (環境経営報告書、社会的責任経営報告書、アニュアル・レポート)が第8回環境報告書賞の「CSR報告書継続優秀大賞」、「サステナビリティ報告書賞・優良賞」受賞
5月	第18回リコー自然教室初級編開催、環境ボランティアリーダー計296名に	5月	2004年度リコー福井事業所環境報告書が第8回環境報告書賞の「サイトレポート継続優秀賞」受賞
5月	CO2排出ゼロ (カーボンニュートラル)の欧州環境大会開催	6月	リコーの「キャパシタによる省エネ定着技術」が日本画像学会2004年度表彰の「技術賞」受賞
6月	再生複写機「imagio Neo 350RC/450RC」のエコリーフを公開、再生複写機のエコリーフ公開は複写機・プリンタ業界で初	6月	リコー福井事業所が、日本環境経営大賞の「第3回環境経営優秀賞」受賞
6月	「エコライフ・フェア2005」に出展	7月	リコーが、ドイツのエコム社による「企業の社会的責任」格付けて世界第1位 (IT産業部門)
7月	リコー福井事業所でコージェネレーションシステム竣工	8月	栃木リコー、国土交通省関東地方整備局から「平成17年度道路愛護団体」として表彰される
7月	リコーRS事業部が「エコレールマーク」認定取得	9月	リコープリンティングテクノロジーズ 山形事業所が、平成17年度緑化優良工場等表彰の「(財)日本緑化センター会長賞」受賞
7月	第4回リコー親子自然教室開催	10月	リコーの「使用済みトナー容器の再生事業」が、平成17年度資源循環技術・システム表彰の「経済産業省産業技術環境局長賞」受賞
8月	リコーが、中国のタイプ1環境ラベルを初めて取得	10月	三菱ロジスティクス (関西) が、平成17年度「優良自動車運送事業者」表彰される
8月	第17回環境ボランティアリーダー全社会議開催	11月	リコーの環境広告が、第45回消費者のために広告コンクールの「雑誌部門・金賞」受賞
9月	第4回リコー森の教室開催、森林保全リーダー計46名に	12月	リコーの省エネ定着技術「HYBRID QSU」を搭載した高速複合機が「Low Carbon Leaders Awards」のinnovator部門・第4位獲得
10月	第19回リコー自然教室初級編開催、環境ボランティアリーダー計316名に	12月	第1回環境効率アワード2005の「企業パフォーマンス部門奨励賞」受賞
11月	第20回リコー自然教室初級編開催、環境ボランティアリーダー計334名に	12月	リコーが環境コミュニケーションに最も優れた企業として、神戸大学の学生より「ベスト・イーコム賞」受賞
12月	高速デジタル融合機「imagio Neo 602ec/752ec」の筐体の一部に複写機・プリンタ業界では初となる植物由来プラスチックを採用	2006年 1月	リコー沼津事業所がPRTR大賞2005の「PRTR優秀賞」受賞
12月	エコプロダクツ2005に出展	1月	リコーグループ 環境経営報告書2005が第9回環境コミュニケーション大賞の「環境報告書部門・環境報告優秀賞」、「環境報告マイスター賞」受賞
12月	第18回環境ボランティアリーダー全社会議開催	1月	2005年度リコー福井事業所環境報告書が、第9回環境コミュニケーション大賞の「環境報告優秀賞」受賞
2006年 1月	四国リコー・徳島支社に「徳島県3R事業所」認定	2月	リコーテクノシステムズ 九州支社が「平成17年度・福岡市ごみ減量・再資源化優良事業者優秀賞」受賞
1月	第12回リコーグループ環境経営大会開催	2月	東北リコーが、平成17年度 東北地区省エネルギー月間「東北経済産業局長賞」受賞
1月	リコーエレメックス東京事務所に、品川区から「エコクリーン事業所」認定		
2月	東北リコーで、使用済ペットボトルを緩衝部材として使った「循環型エコ包装」がスタート		
2月	第5回リコーグループ・グリーン調達大会開催		
2月	GELJETテクノロジーを採用し、大幅な消費電力削減を実現した「imagio MP C1500シリーズ」を発売		
3月	日本国内のリコーグループが、製品含有化学物質マネジメントシステムを構築		